

令和5年度【大田区立東調布第一小学校・体育科授業改善推進プラン】

◎ 小学校体育科における分析

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童の実態	低	日常生活での運動量の差で、上達や技の習得の速さに差が見られる。 夢中になると、安全に気を付けずに活動する児童がいる。	運動遊びなどで、個々で考えながら活動することはできているが、規則を工夫したり友達のよい動き方を見付けたりする児童が少ない。	体を動かすことが大好きで主体的に取り組む児童がいる反面、苦手な種目やできないことに対して挑戦しない児童がいる。
	中	基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動の内容によって個人差が大きい。 健康・安全に対する知識を理解し、生活場面でも意識して行動できている児童が多い。	課題を見付けることはできるが、どのように解決していくかの方法を選ぶことができる児童が少ない。	体育への関心は高く、意欲的に体を動かす児童がいる反面、苦手な運動領域によっては、挑戦しようとしていない児童がいる。
	高	基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動領域によっては技能差が大きくなる傾向がある。 安全・健康に対する知識を生活の中に十分に生かしきれていない児童がいる。	友達の良さを見付けたり、チームで工夫して運動したりしている姿も見られるが十分ではない。 自己の課題に合わせた活動の場を工夫できない児童が多い。	体育への関心は高く、意欲的に体を動かす児童がいる反面、苦手な運動領域によっては、挑戦しようとしていない児童がいる。

体育科の課題

- ・授業における運動量、日常生活における運動機会の増加。
- ・ICT を効果的に活用した授業づくり。
- ・個人やチームの課題を見付け、その課題を解決する力の育成。
- ・運動の基礎・基本となる技能、各領域の技能向上。
- ・安全・健康に関する知識を習得し、日常生活において活用・実践する力の育成。

◎ 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- 取組における成果◇と課題◆
- ◇ 教員間の積極的なコミュニケーションにより共通理解が向上し、指導内容の統一性や効果が高まった。
 - ◇ ICT は効果的な教材として活用され、児童の学習意欲や技能が向上した。
 - ◆ 「主体的・対話的で深い学び」の育成において、主体的な学びの場の設定や、児童が対話する内容について十分理解できていない状態で対話が行われているという課題ある。

◎ 体育科の具体的授業改善案

- 児童の実態や課題、改善策について共通理解し、指導の充実を図る。
- 体育朝会において、長なわと持久走を行う。休み時間や家庭での運動機会の増加を図る。
- タブレットを活用して、見本の動きや自分の動きを見たり友達の動きを共有したりして、課題発見や課題解決を図る。
- 若手教員などに対して、実技研修や相互の授業観察等を行い、指導力向上を図る。
- チーム活動やグループワークを増やし、児童同士でのコミュニケーションや協力を促進する活動を積極的に取り入れる。児童に対話をする意義や目的を十分伝える。